

古文 読解問題 「枕草子」～中納言参り給ひて～①

中納言ア参り給ひて、御扇奉らせ給ふに、「隆家こそいみじき骨は得てイ侍れ。それを張らせて参らせむとするに、^①おぼろけの紙は、え張るまじければ、求め侍るなり。」と申し給ふ。「いかやうにかかる。」と問ひウ聞こえさせ給へば、「すていみじう侍り。『さらにまだ見ぬ骨のさまなり。』となむ人々エ申す。まことにかばかりのは見えざりつ。」と、言高くオのたまへば、「さては、扇のにはあらで、海月のななり。」と聞こゆれば、「これは隆家が言にしてむ。」とて、^②笑ひ給ふ。

かゆうことこそは、かたはらいたきことのうちに^③入れつべけれど、「一つな落としそ。」と言えば、いかがはせむ。

問一・「枕草子」に関する次の問題に答えなさい。

(1) 「枕草子」の作者・成立した時代を答えなさい。

(2) 「枕草子」と同じジャンルの作品を次の中から全て選びなさい。

ア. 伊勢物語 イ. 方丈記 ウ. 十訓抄 エ. 大鏡 オ. 徒然草

問二・傍線部ア～オの敬語の種類と敬意の対象（誰から誰への敬意か）を答えなさい。

問三・傍線部①「おぼろけの紙は、え張るまじければ、求め侍るなり」を現代語訳しなさい。

問四・傍線部②「笑ひ給ふ」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア. 中納言隆家が、清少納言が言った扇に対する冗談を面白いと思い笑った。
- イ. 中納言隆家が、自分では思いつくことのできない発言をされたことに苦笑いをした。
- ウ. 中宮定子が、話を「秘密にしなさい」と言われたことにたいして情けないと笑った。
- エ. 中宮定子が、骨のない海月を知りながら海月の骨だといった冗談を面白いと感じ笑った。

問五・傍線部③「入れつべけれ」の文法的な説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア. ラ行下二段活用 + 完了 + 推量
- イ. ラ行下二段活用 + 完了 + 意志
- ウ. ラ行下二段活用 + 強意 + 推量
- エ. ラ行下二段活用 + 強意 + 当然

読解問題 「枕草子」～中納言参り給ひて～ ① 解答・解説

問一 (1) 清少納言／平安時代（中期）

(2) イ・オ

：イ「方丈記」オ「徒然草」はともに「隨筆」に含まれる。ア「伊勢物語」とエ「大鏡」は「物語」、ウ「十訓抄」は「説話」に含まれる。

問二.

ア 謙譲語 作者から中宮定子への敬意

イ 丁寧語 中納言隆家から中宮定子への敬意

ウ 謙譲語 作者から中納言隆家への敬意

エ 丁寧語 中納言隆家から中宮定子への敬意

オ 尊敬語 作者から中納言隆家への敬意

問三. ふつうの紙を張ることはできないので、探し求めているのです。

問四. ア

問五. エ